



2012～2013年度

中津平成週報

Rotary Club Of Nakatsu Heisei



2012～2013年度
国際ロータリー・テーマ

奉仕を通じて平和を
Peace through Service

国際ロータリー会長
田中作次

国際ロータリー2720地区 **中津平成ロータリークラブ**

会長 渡邊 文敏 幹事 辛嶋 崇 会報担当 浪治 豊 二反田新一 クラブ広報委員長 長野 定生

例会日/毎週木曜日 12:30

例会場/グランプラザ中津ホテル TEL 0979-24-7111

事務局/〒871-0055 中津市殿町1383の1 中津商工会館2F

TEL 0979-22-9716 FAX 0979-22-9722

e-mail office@n-heisei.org

<http://www.n-heisei.org/>

第1093回例会 平成24年11月1日(木)

●本日の例会プログラム 会員卓話「ロータリー財団について」
岡野重信会員

◎次回例会プログラム ゲスト卓話「酸素カプセル メディカル」
進 和美氏



前回(1092回例会)の記録

平成24年10月25日(木)

■ゲスト

菅 謹一郎氏(竹田RC)

■ビジター

安藤元博氏(中津RC)

古野博久氏(豊前RC)

■出席報告

会員数 24名

免除者数 1名

対象者数 23名

本日出席者 19名

欠席者数 4名

出席率 **82.61%**

■前々回出席報告の修正

前々回欠席者 4名

メイクアップ 0名

欠席者 4名

修正出席率 82.61% → **82.61%**

●メイクアップ

●欠席者

出納、松本、矢頭、宇都宮

◎ロータリーソング あすという日が

◎会長の時間 会長 渡邊文敏

健康寿命という言葉をご存知でしょうか? 2000年にWHO(世界保健機構)が提唱した言葉で、介護を受けたり、病気で寝たきりになったりせず「自立して生活できる」期間、つまり、健康で暮らせる期間をいうそうです。

今年6月に厚生労働省が初めて22年の全国の健康寿命ランキングを発表しました。このランキングによりますと、健康寿命の平均は男性が70.4歳、女性は73.6歳でした。一方で、同じ年の平均寿命は男性で79.6歳、女性は86.4歳なのでこの差、男性が約9年、女性は約13年が健康に問題を抱え、日常生活に何らかの支障があると考えられます。この差が大きくなればなるほど、不健康の期間が長くなるということで、医療費などの社会保障費も増大します。



先日読売新聞の朝刊に健康寿命と平均寿命の差が最大だったのは男性で大分県の10.3年、女性が広島県の14.5年と報道されていました。ちなみに、大分県の健康寿命のランクは男性で39位69.8歳、女性で35位73.2歳という低いランクでした。健康寿命のランキングNo.1に輝いたのは男性が愛知県で女性は静岡県でした。愛知県は高齢者を含めて就業率が高く、活発で積極的な人が多いそうです。静岡県はご存知のとおり、お茶の消費量は全国平均の2倍です。緑茶に含まれるカテキンは糖尿病や動脈硬化を予防する効果があり、健康の秘密は緑茶であると分析しています。

又、東北大学の研究グループによりますと、日々のウォーキングは平均余命や生涯の医療費にも影響すると発表しています。来年1月からは復興特別所得税が、再来年の4月から消費税が8%に引き上げられるなど今後社会保障の負担はどんどん増えて行きます。しかも、毎年1兆円のペースで社会保障費が増え続けています。医



2012～2013年度

中津平成週報

Rotary Club Of Nakatsu Heisei



2012～2013年度
国際ロータリー・テーマ

奉仕を通じて平和を
Peace through Service

療費の節約と、健康寿命を延ばすためにも、まず歩くことから健康づくりを始めたらいかがでしょうか。

◎幹事報告 幹事 辛島 崇

●例会変更 杵築RC、別府RC、別府東RC、豊前RC

●幹事報告

- ・第23回「人権を守る市民の集い」の開催について
- ・本田直前ガバナー「言霊集」発刊のお知らせ
- ・中津中央RCから11月プログラム届く



◎委員会報告

プログラム担当 土居会員

本日週報の次週プログラムに訂正がございます。

次週は卓話の時間、会員卓話「ロータリー財団について」岡野重信会員 となっています。

姉妹交流担当 長野修士会員

今週の土日は加古川での姉妹交流が開催されます。出席者の方々はよろしく願いいたします。

◎ニコニコボックス

【辛嶋幹事】県内では最遠方となります竹田RCから菅さんを当クラブ例会卓話にお迎えしました。ありがとうございます。本日はよろしくお願い申し上げます。

【渡邊会長】菅さん、今日はありがとうございます。後程、卓話をよろしくお願い申し上げます。本日の例会は久しぶりに出席率が80%を超えました。嬉しく思います。

【竹田RC 菅 謹一郎氏】辛嶋幹事さんには先月竹田RCに御出でいただきまして、向笠元RI会長について卓話を頂きました。ありがとうございます。本日は私が卓話をさせていただきます。また、本日メーカーの安藤会員（中津RC）とは商工会議所の関係で先日お会いした折に本日のことをお話したところ例会に御出で頂きました。ありがとうございます。

【二反田会員】先週S A Aでありながら例会場に到着時間が遅いとお詫びしましたが、今週も遅れてしまいました。また、同じく先週の例会ではP Cの用意を忘れてしまい、加来会員のP Cをお借りしました。ありがとうございます。

【長野修士会員】今週の土曜日は姉妹交流、よろしくお願い申し上げます。

【清源会員】たくさんのニコニコをありがとうございました。

◎ゲスト卓話

「まちおこし～竹田～」

竹田RC 菅 謹一郎氏



まずは『竹楽』の様子をご覧ください。

- ①竹楽は荒廃した里山の保全を目的に、放置された山林の竹を竹灯籠に加工し、城下町の歴史的景観地域「歴史の道」と商店街合わせて2.5kmに2万本の竹灯籠が飾りつけられる、晩秋のもみじと竹灯籠のイベントです。

籠が飾りつけられる、晩秋のもみじと竹灯籠のイベントです。

- ②開催は毎年11月の第3金・土・日の3日間で紅葉したもみじや竹灯籠のほのかな明かりが、城下町の街並みと調和し幻想的な風景を作り出しています。

- ③竹灯籠の灯りは電灯による無機質な灯りとは対照的に、ろうそくの灯りは情緒的で心の中を灯すような、優しくいつくしみさえを感じさせる灯りです。

- ④最初は平成12年に実験的に実施

竹田の町並みと里山保全という大きな目的を持つ事業が評価、平成13年12,000本、平成14年からは3日間の開催で20,000本、まちと村の協力と連携により、今までになかった発想は新しい町づくりの核になりつつある。



竹楽がこれまでの観光イベントと異なるのは

- ①一過性でないイベント
- ②観光業だけのものではなく里山保全と産業連関の取り組みが環境・農業・商業から教育分野まで及ぶ取り組みである。
- ③市民総参加型小学生から高齢者
いろいろな場面で参画が可能なイベント
つまり

竹切りや竹灯籠づくり、竹炭づくりなど一連の流れを楽しむ場・学びの場として提供する里山保全ツーリズムに活用できるということ。

竹楽がきっかけとなった新しい旅の形態が出来つつある。

市民も元気が出てきた。

竹楽が竹田市の看板イベントとして成長し、成功をおさめる中で、あきらめずに行動していくことの大切さを痛感するところです。

これからの展望

私たちの地域づくりは

一方通行の都市流失型システムから竹楽のような地域循環型社会への転換をいかに図るかが大きな課題です。
つまり

竹による循環型システムを参考に幅広く循環型の仕組みをつくるのが課題。